



**jisql ユーザ・ガイド**

**jisql**

**バージョン 2.0**

**ドキュメント ID: 34886-01-0200-01**

**改訂 : 1999 年 10 月**

Copyright © 1989-1999 by Sybase, Inc. All rights reserved.

このマニュアルの内容は、予告なく変更されることがありますが、Sybase, Inc. およびその関連会社では内容の変更に関して一切の責任を負いません。

このマニュアルに記載されているソフトウェアはライセンス契約に基づいて提供されるものであり、無断で使用することはできません。

このマニュアルの内容を弊社の書面による事前許可を得ずに電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても複製、転載、翻訳することを禁じます。

#### マニュアルの注文

マニュアルの注文を承ります。ご希望の方は、サイベース株式会社営業部または代理店までご連絡ください。マニュアルの変更は、弊社の定期的なソフトウェア・リリース時にのみ提供されます。

#### Sybase の商標

Sybase、SYBASE のロゴ、AnswerBase、Embedded SQL、ENTERPRISECONNECT、Gain Momentum、Navigation Server、ObjectConnect、ObjectCycle、OMNICONNECT、Open Client、Open ClientConnect、Power Dynamo、PowerBuilder、Powersoft、Replication Agent、Replication Driver、Replication Server、SQL Central、SQL Remote、Sybase IQ、Sybase SQL Anywhere、Sybase System 11、Sybase WAREHOUSEWORKS、Sybase どこでも SQL、SyBooks は、米国法人 Sybase, Inc. の登録商標です。Backup Server、Client Library、DBLibrary、e-Anywhere、EIP、Enterprise Information Portal、Enterprise Messaging Services、Fastbuild、Financial Server、Information Anywhere、Mainframe Connect、MASS DEPLOYMENT、media.splash、Net Gateway、Net Library、NetImpact、Open SERVERCONNECT、QuickStart DataMart、SADG、SQL Debug、SQL Server、SQL Servermanager、SQL Servermonitor、Support Plus、Support Plus Lite、The Architecture for Change、web.sql は、米国法人 Sybase, Inc. の商標です。

このマニュアルに記載されている上記以外の社名および製品名は、各社の商標または登録商標の場合があります。

#### 権利について

米国政府による使用、複写、開示は、国防総省の契約に関して DFARS 52.227-7013 の項目 (c) (1) (ii) に明記されている制約条項、およびその他の政府機関の契約に関しては FAR 52.227-19 (a)-(d) に明記されている制約条項に従います。

Sybase, Inc., 6475 Christie Avenue, Emeryville, CA 94608

# 目次

第 1 章	jisql の使用方法 .....	1
	jisql の起動 .....	2
	構文とパラメータ .....	2
	例 .....	4
	jisql でのログイン .....	6
	jisql での操作方法 .....	7
	クエリの入力と実行 .....	9
	現在の問題点 .....	11
索引	.....	13



# 第 1 章

## jisql の使用方法

この章では、グラフィカル・ユーザ・インタフェースを装備した使いやすい Transact-SQL (T-SQL) エディタ **jisql** の使用方法について説明します。次の項目について説明します。

項名	ページ
<a href="#">jisql の起動</a>	2
<a href="#">jisql でのログイン</a>	6
<a href="#">jisql での操作方法</a>	7
<a href="#">現在の問題点</a>	11

### jisql の利点

T-SQL コマンド文の作成や、T-SQL クエリの実行に役立ちます。また、実行結果をテキストとして表示したり、テーブル内に表示したりできます。

入力データや実行結果を標準ファイル・フォーマットで保存できるので、他のアプリケーション (Microsoft Excel や **bcp** など) にインポートできます。

**jisql** は Java 言語で記述されており、プラットフォームに固有のコードを使用していません。また、Swing の一部である Java Foundation Classes (JFC) を採り入れています。Swing コンポーネントも Java 言語で記述されており、そのコードは特定のウィンドウ・システムに依存しません。したがって、ネイティブのウィンドウ・システムに依存することなく、使い慣れたルック・アンド・フィールを備えた環境で **jisql** を使用できます。

## jtsql の起動

プラットフォーム	操作方法
UNIX/Linux	コマンド・ラインに <code>jtsql</code> と入力します。
Windows	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 [ スタート ] をクリックします。</li> <li>2 [ ファイル名を指定して実行 ] をクリックします。</li> <li>3 [ ファイル名を指定して実行 ] ダイアログ・ボックスが表示されたら、<i>jtsql.bat</i> のパスを入力し、[OK] をクリックします。</li> </ol>

Windows 環境の場合、**jtsql** を実行するには 1024x768 以上の画面解像度が必要です。

## 構文とパラメータ

次のコマンド・ライン・パラメータと構文を使用して **jtsql** を起動することもできます。

```
jtsql    [-d] [-v] [-L metal|system] [-U username] [-P password]
          [-Z <language>] [-C <LoginInformationFile>]
          [-S host:port[?propname=value[&propname=value]...]]
```

または

```
[-S JDBC URL[?propname=value[&propname=value]...]]
```

または

```
[-S JNDI URL[?propname=value[&propname=value]...]]
```

表 1-1: jtsql コマンド・ライン・パラメータ

パラメータ	説明
-d	デバッグ・モードへ切り替えます。
-v	バージョン番号を表示します。
-L	<p>jtsql のルック・アンド・フィールを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>"metal" を指定すると、Java Software のルック・アンド・フィールが適用されます。</li> <li>"system" を指定すると、使用しているオペレーティング・システムに応じて Motif、Windows、または Macintosh のルック・アンド・フィールが適用されます。</li> </ul> <p>jtsql のデフォルトのルック・アンド・フィールは "metal"。</p>
-U	<p>データベースへの接続に使用するログイン ID。</p> <hr/> <p><b>注意</b> -S を指定する場合は、-U も必ず指定してください。</p> <hr/>
-P	指定したログイン ID のパスワード。
-Z <language>	<p>jtsql のラベルを表示する言語を設定します。現在サポートされている値は、"U.S. English ( 米語 )"、"Chinese ( 中国語 )"、"Deutsch ( ドイツ語 )"、"Español ( スペイン語 )"、"Français ( フランス語 )"、"Japanese ( 日本語 )"、"Korean ( 韓国語 )"、"Português ( ブラジル系ポルトガル語 )"。</p>
-C <LoginInformationFile>	<p>ログイン情報を格納するファイルのパスと名前を設定します。この値を指定すると、接続ウィンドウにログイン情報が表示されます。ファイル名を指定しない場合は、ホーム・ディレクトリに <i>jtsql.prp</i> が作成されます。</p>

パラメータ	説明
-S	<p><i>Host:Port?Properties</i></p> <p>または</p> <p><i>JDBC URL</i></p> <p>または</p> <p><i>JNDI URL</i></p> <p>それぞれ次の内容を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <i>Host</i> は、データベース・サーバを実行するマシンの名前。</li><li>• <i>Port</i> は、データベース・サーバが要求を受け付けるポート。</li><li>• <i>Properties</i> は接続プロパティ。『jConnect for JDBC プログラマーズ・リファレンス』を参照。</li><li>• <i>JDBC URL</i> は完全な JDBC URL。</li><li>• <i>JNDI URL</i> は、JNDI 接続文字列とその適切なプロパティ。詳細については、『jConnect for JDBC プログラマーズ・リファレンス』を参照。</li></ul> <p>複数のプロパティを指定する場合は、各プロパティの間にアンパサンド(&amp;)を挿入します。ブランクは使用できません。?と&amp;を文字として使用する場合は、その文字列を引用符(")で囲んでください。</p> <hr/> <p><b>注意</b> -S を指定する場合は、-U も必ず指定してください。</p>

## 例

この項では、さまざまなパラメータを使用した **jtsql** の起動方法を紹介します。

Java Software ルック・アンド・フィールを適用して接続ウィンドウを開くには、次のように入力します。

```
jtsql
```

Motif、Windows、または Macintosh ルック・アンド・フィール(使用しているオペレーティング・システムによって異なります)を適用して接続ウィンドウを開くには、次のように入力します。



```
jisql -L system
```

Motif、Windows、または Macintosh ルック・アンド・フィール (使用しているオペレーティング・システムによって異なります) を適用してホスト "serv" への接続をオープンし、ユーザのログイン ID (**sa**) とそのパスワードを設定するには、次のように入力します。

```
jisql -L system -S serv:3312 -U sa -P pass
```

Java Software ルック・アンド・フィールを適用してホスト "serv" への接続をオープンし、パスワードを指定しないでユーザのログイン ID (**sa**) を設定するには、次のように入力します。

```
jisql -S serv:3312 -U sa
```

Java Software ルック・アンド・フィールを適用してホスト "serv" への接続をオープンし、ユーザのログイン ID (**sa**) とそのパスワード、およびプロパティ **HOSTNAME** と **PACKETSIZE** 設定するには、次のように入力します。

```
jisql -L metal -U sa -P pass -S serv:3312?HOSTNAME=brillig&PACKETSIZE=4096
```

Java Software ルック・アンド・フィールを適用し、ユーザのログイン ID (**sa**) とそのパスワードを設定。さらに、完全な JDBC URL を使用してホスト "serv" への接続をオープンするには、次のように入力します。

```
jisql -U sa -P pass -S jdbc:sybase:Tds:serv:3312
```

Java Software ルック・アンド・フィールを適用し、ユーザのログイン ID (**sa**) とそのパスワードを設定。さらに、Sun の LDAP ファクトリを使用して JNDI 接続を行うには、次のように入力します。

```
jisql -U sa -P pass -S  
"jdbc:sybase:jndi:ldap://LDAP_hostname:LDAP_port/servername,  
o=MyComany,c=US?INITIAL_CONTEXT_FACTORY=  
com.sun.jndi.ldap.LdatCtxFactory&PROVIDER_URL=  
ldap://LDAP_hostname:LDAP_port"
```

## jisql でのログイン

**jisql** を起動すると、次の接続パラメータを入力するログイン・ウィンドウが表示されます。

*Username* — ログイン ID。

*Password* — 指定したログイン ID のパスワード。

*Hostname* — データベース・サーバを実行しているマシンの名前。

*Portnumber* — データベース・サーバが要求を受け付けるポート。

*Properties* - オプション。必要な jConnect 接続プロパティを指定します。接続プロパティについては、『jConnect for JDBC プログラマーズ・リファレンス』を参照。

*Language* — **jisql** GUI ラベルを表示する言語。現在サポートされている言語は次のとおりです。

- U.S. English ( 米語 )
- Chinese ( 中国語 )
- Deutsch ( ドイツ語 )
- Espanõl ( スペイン語 )
- Français ( フランス語 )
- Japanese ( 日本語 )
- Korean ( 韓国語 )
- Português ( ブラジル系ポルトガル語 )

[ 接続 ] をクリックすると、データベース サーバへ接続されます。

初めてのログインに成功すると、パスワード以外のすべての接続パラメータがプロパティ・ファイルに格納されます。次回からは、パスワードを入力するだけでログインできます。プロパティ・ファイルには *jisql.prp* という名前が付けられ、ホーム・ディレクトリに格納されます。このファイルには、常に最新の接続データが格納されます。

## jtsql の操作方法

ホスト・サーバへ接続すると、**jtsql** 接続ウィンドウが表示されます。このウィンドウは、ツールバー、[ 入力 ] ウィンドウ、[ 出力 ] ウィンドウ、[ ステータス ] ウィンドウで構成されています。また、移動可能なメニュー・バーも備わっています。

**注意** 複数のウィンドウを開いている場合、アクティブにできるウィンドウは一度に 1 つだけです。アクティブ状態のウィンドウは他のウィンドウの前面に表示され、タイトル・バーが強調表示されます。

GUI の詳細については、**jtsql** のオンライン・ヘルプを参照してください。

### ツールバー

[ 実行 ] ボタンをクリックして、[ 入力 ] ウィンドウに表示されている文を実行します。

ツールバーに表示されているサーバのすべてのデータベースが、ドロップダウン・リスト・ボックスに表示されます。セッション中にデータベースをすばやく変更するには、ドロップダウン・リスト・ボックスに表示されているデータベース名をクリックします。



[ 履歴 ] アイコンをクリックすると、[ 履歴 ] ウィンドウが開きます。このウィンドウには、現在の接続セッションでそれまでに使用したすべてのバッチ (1 文または複数の文) が表示されます。履歴バッファに蓄積するバッチの最大数は、[ オプション ] ウィンドウの [ その他 ] タブで設定できます。再使用するテキストを強調表示して [ 実行 ] をクリックすると、[ 入力 ] ウィンドウにその文またはバッチが表示され、再実行されます。



[ 履歴 ] ウィンドウ内の前のバッチを選択するには、上矢印アイコンをクリックします。選択したバッチは [ 入力 ] ウィンドウに表示され、コマンドを編集することができます。または、[ 実行 ] ボタンをクリックして、選択したバッチを再実行します。



[ 履歴 ] ウィンドウ内の次のバッチを選択するには、下矢印アイコンをクリックします。選択したバッチは [ 入力 ] ウィンドウに表示され、コマンドを編集することができます。または、[ 実行 ] ボタンをクリックして、選択したバッチを再実行します。

### [入力] ウィンドウ

[入力] ウィンドウは、クエリ文を入力または貼り付けるために使用します。複数の文を使用する場合はコマンド・デリミタを使用します。デフォルトのデリミタは 'go' ですが、[オプション]>[オプション・ウィンドウを開く]>[入力ウィンドウ・オプション]で変更できます。[編集]メニューの貼り付け機能を実行すると、コピーまたは切り取った内容が[入力]ウィンドウに貼り付けられます。

[入力]ウィンドウのデフォルト設定を変更するには、[オプション]>[オプション・ウィンドウを開く]>[入力ウィンドウ・オプション]を選択します。

### [出力] ウィンドウ

[出力]ウィンドウには、サーバによるクエリ文の実行結果が表示されます。結果セットは、Swing テーブル・コンポーネントまたは通常のテキストです。詳細については、テーブル形式とテキスト形式の出力を参照してください。

結果セットに複数の **ResultSet** (テーブル出力のみ) が含まれている場合、[出力]ウィンドウの別々の「タブ」に各 **ResultSet** が表示されます。タブをクリックして、他の **ResultSet** を表示してください。

別の文またはバッチが処理されて新しい **ResultSet** が返されると、[出力]ウィンドウの内容がクリアされます。

出力モードがテーブルの場合、**ResultSet** に含まれるデータ型によっては特殊な処理が行われます。現時点で特殊な処理が行われるデータ型は、イメージ・オブジェクトです。詳細については、イメージ・カラムを参照してください。

[出力]ウィンドウのデフォルト設定を変更するには、[オプション]>[オプション・ウィンドウを開く]>[出力ウィンドウ・オプション]を選択します。

### [ステータス] ウィンドウ

[ステータス]ウィンドウには、次のようなメッセージが表示されます。

- 操作の結果として **ResultSets** が返されない処理 (たとえば、**create** または **update** 文) が完了したことを知らせるメッセージ
- 警告メッセージ (その他のオプションで設定されている場合)
- 影響を受けるローの数 (このオプションが設定されている場合)

### メニュー・バー

各メニューおよびメニュー・コマンドには、下線の付いた文字が記されています。これはショートカット・キーと呼ばれ、このキーを押すことでそのメニューや、メニューが選択されているときはそのメニュー内のコマンドを実行できます。この方法で実行したメニューまたはメニュー・コマンドは、現在アクティブな接続ウィンドウのセッションに適用されます。

## クエリの入力と実行

バッチ・ファイル (またはスクリプト) は、特定のタスクを実行するための一連の Transact-SQL 文です。スクリプトはファイルとして保存され、多くのサーバ・アプリケーション・プロジェクトの基盤となります。通常、スクリプト・ファイルには、テーブルの定義、インデックス、ストアド・プロシージャに加え、レポートやバッチ・ジョブが保存されます。

サーバに接続したら、[データベース] ドロップダウン・リストをクリックし、そのリストから使用するデータベースの名前を選択します。クエリを入力する方法はいくつかあります。

次のいずれかの方法でクエリを実行してください。

- ツールバーの **[実行]** ボタンをクリックするか、[クエリ] - [クエリの実行] を選択します。
- [入力] ウィンドウにクエリを直接入力し、**[実行]** ボタンをクリックします。
- [一覧] メニューからオプションを選択します。

ユーザ・テーブルまたはシステム・テーブルが表示されている場合は、テーブルまたはカラムの名前 (複数可) をクリックして [選択] をクリックします。連続していない複数のテーブルまたはカラムを選択する場合は、**Ctrl** キーを押しながら各テーブル名またはカラム名をクリックします。連続した複数のテーブルまたはカラムを選択する場合は、**Shift** キーを押しながら最初の項目と最後の項目を選択してください。選択したテーブルまたはカラムに対する **select** 文が [入力] ウィンドウに挿入されます。

ストアド・プロシージャまたはトリガが一覧表示されている場合は、目的の項目名をクリックして [テキストの表示] をクリックします。選択したストアド・プロシージャまたはトリガのテキストが別のウィンドウに表示されます。テキストの一部をクエリで使用するには、使用したいテキストを強調表示し、**Ctrl+c** を押します。次に、カーソルを [入力] ウィンドウに移動して **Ctrl+v** を押します。これで、選択したテキストが [入力] ウィンドウに挿入されます。ウィンドウ・マネージャに挿入される場合もあります。

- [入力] ウィンドウですでに実行したクエリを強調表示し、**[実行]** ボタンをクリックするか、[クエリ] - [クエリの実行] を選択します。
- [履歴] ウィンドウから [入力] ウィンドウへ文 (複数可) をコピーします。ただし、この操作を行うには、少なくとも一度は文またはバッチを実行していなければなりません。

- [履歴] アイコンをクリックします。[履歴] ウィンドウで、実行する文 (複数可) を強調表示し、接続ウィンドウのツールバーの [実行] ボタンをクリックします。

**Ctrl+c** を押して [履歴] ウィンドウ内の文をコピーし、**Ctrl+v** を押して [入力] ウィンドウへ貼り付けることもできます。

クエリの実行結果 (ResultSet) は [出力] ウィンドウに表示されます。

## 現在の問題点

- 起動時に次のようなメッセージが表示された場合は、下記のように対処してください。

```
"Font specified in font.properties not found  
[-monotype-arial-bold-r-normal---% d-*-p-*-  
iso8859-1]"
```

**Linux の場合 :** [www.gimp.org/fonts.html](http://www.gimp.org/fonts.html) の「Gimp Resources」を参照し、説明に従ってフォントを追加してください。

**Solaris の場合 :** 最新の `/jre/lib/font.properties` ファイルを使用します。詳細は、<http://cheat.xcf.berkeley.edu/archive/java2d-interest/9807/0107.html> を参照してください。

- Solaris のウィンドウ・マネージャ KDE および fvwm では、ショートカット・キーを使用できません。
- ウィンドウ間での切り取りおよび貼り付け機能は、Solaris のウィンドウ・マネージャ、とくに kde、fvwm、twm では使用できません。ただし、jisql 内で処理される場合、または Solaris の CDE では問題ありません。





# 索引

## J

[jysql 1-6, 2](#)

[接続例 4](#)

[パラメータ 2, 3](#)

## は

[パラメータ](#)

[jysql 2, 3](#)

## ゆ

[ユーティリティ](#)

[jysql 1-6](#)

## れ

[例](#)

[jysql 4](#)

